

# GLOBAL EYE

第一回目は、NSDにとって大切な「デザインのオリジナリティ」についてです。

持論ですが、「見すぎ、知りすぎ、慣れすぎ」からは人の心に訴えるものが生まれないと思っています。

ある海外の著名な設計事務所では、雑誌やインターネットで他事例の写真を見ることは禁止と聞いたことがあります。皆さんはいかがでしょう？ 時間がない、イメージが湧かないと、つい写真を横目にデザインしがちですが、これが最も危険なパターンです。

しかし、無から新しいものを生み出すことは一握りの天才しかありえません。だからと言って諦めては終わりです。

影響を受けた空間、もの、人、自然、音楽、香りなど、頭の中のミキサーに入れてじっと目を閉じる。何も出ない時は苦しいですが、いずれトンネルを抜けて光が射す瞬間が訪れます。

その結果、自らの感性で全体が覆われ、独自性と人に訴える力強さが生まれてきます。その日常の積み重ねがあつてこそ、世界で通じるデザイン、そしてブランディングに繋がって行くはずです。

我々も「見猿、知ら猿、慣れ猿」を、まずは週1日から実践し、常習化していきましょう。いずれ、左甚五郎の境地に達するかもしれません。

大久保豊